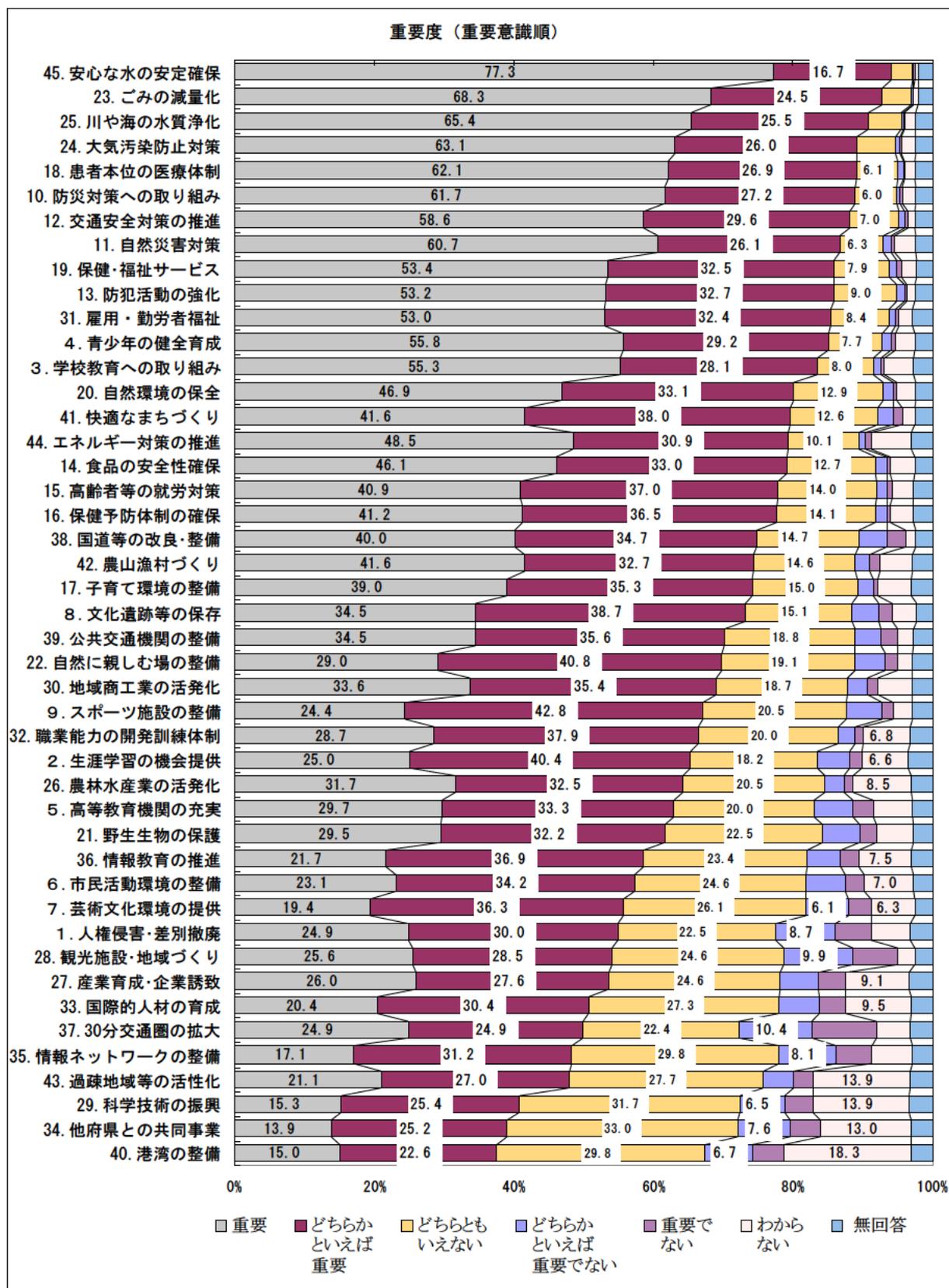


(1) 重要度に関する結果の概要

(重要意識は「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)



ほとんどの項目で、重要意識（「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計）がおおむね50%以上に達しており、重要性に対する認識は全体として高い。

「重要でない」と「どちらかといえば重要でない」の計は、高いものでも10%台にすぎず、すべての項目で重要意識の方が高くなっている。

45項目の中で重要意識が最も高いのは、「安心な水の安定確保」(94.0%)で、以下「ごみの減量化」(92.8%)「川や海の水質浄化」(90.9%)「大気汚染防止対策」(89.1%)「患者本位の医療体制」(89.0%)「防災対策への取り組み」(88.9%)など安全・安心に関する項目と環境に関する項目が上位となっている。

重要意識が最も低いのは、「港湾の整備」(37.6%)で、次いで「他府県との共同事業」(39.1%)「科学技術の振興」(40.7%)「過疎地域等の活性化」(48.1%)「情報ネットワークの整備」(48.3%)となっている。

重要意識が下位の項目は、「どちらともいえない」あるいは「わからない」の回答率が高くなっている。